

大阪城

2024
11/18
(月)
14497
号

全港
西成
分會

247
6647-
4947

今週からは寒くなるといっている。ジャンパーなど本格的に冬の準備が必要になってきた。

社会も年末・新年にむけて、新しく動きはじめている。第2次石破政権も、2024年度の補正予算や、総合経済対策を決めようと動いている。地域的にみんなの関心が高く、よく話のネタにもなる非課税・低所得世帯への3万円を目安の給付の対策も入っている。今年春ごろの岸田政権の時からいって、本来なら年内に支給されていたかも知れなかつたが、岸田政権が消えたので、今、検討が始まっている。対象は全国に1500万世帯といわれる。このうち子育て世帯には、子ども一人あたり2万円を加算するという。電気ガス補助は来年1月再開し3月まで実施する方針。今月末に臨時国会が開かれ議論されてから実施なので、実際の3万円支給などは年内はむづかしいのではないだろうか。

同じ補正予算案の中で、半導体産業やフラピダスという北海道の会社には何兆もの金をと出すという。半導体は「産業基盤のコア」といわれ、スマホ、PC、家電、自動車(EV)、電気製品には重要ではある。しかし成功と勝負の弱いうピダス計画に10兆の金を出すのはギャンブルになっている。経済対策の論議がたまる。

今年の就労活動も実質あと一月余

そろそろ越年も頭に入れた備えが必要

仕事の落ち込みが顕著になりはじめました。契約求人の落ち込みが特にひどい、「景気の悪化」も言われる以上に悪いようです。もうすぐ12月。厳しい年末・越年となりそうです。

10月の 地域求人数 (速報値)		対前月 増減比	対前年 同月 増減比
現金 (日払い)	14,369	1.0%	-2.5%
契約 (延べ数)	10,848	-5.2%	-20.6%
高齢者清掃 ほか	4,992	12.8%	3.8%

求人情報(西成労働福祉センターだより)

中小規模の建設事業者の倒産が相次いでいる。帝国データバンクによれば、2024年の建設業の倒産数は過去10年で最多になる見込みとのこと。

この背白票にあるのは、コスト高と人手不足感であるという。特に後者については、建設労働者自体の減少と残業時間の上限規制によるところが大きい。ただでさえ人が居ないのに、働いてもらえる時間も短くなれば、当然人手不足となる。労働者を守る「働き方改革」と事業者の円滑な事業運営のバランスをとった政策実現は容易ではないと思われる。

この地域においても人手不足の様子が現れている。早朝、センター周辺では求職者よりも求人者の方が多い。多くの事業者から「仕事はあるが、人が居ない。人が居ないから受注できる仕事量に限界がある。」といった声が聞こえてくる。